

ぐるぐる回る大いなる意識、日の出から日の入りまで

グルマーイの誕生日のお祝いの報告

2018年6月24日

シュリー・ムクターナンダ・アーシュラム

エピローグ

ジョナサン・シムキン

笑いは、人を陶醉させ、楽しませ、明るくさせ、そして歌わせます。それは親近感、皮肉、認識、そして遊びのきっかけとなり得ます。笑いは英知を授けることができ、道教の哲学者荘子(紀元前 396～286 年)、ギリシャの哲学者ディオゲネス(紀元前 412～323 年)、そして「笑うブツダ」として知られるようになった伝説的な 10 世紀の中国の僧侶布袋(ほてい)などの多くの教師が、彼らの教授法の一部として笑いを使い、それを証明してきました。さらに、数え切れないほどの教師がウィットを利かせて啓発するために、シェイク・ナスルディンの物語などのユーモラスな教えの物語を使ってきました。

あらゆる種類の哲学者、詩人、科学者、そして思想家が、笑いという人間の性質の起源の深さと、人間社会におけるユーモアの役割を探ってきました。「人間は笑い、そして泣く唯一の動物である」と、英国の作家ウィリアム・ヘイズリットは約 200 年前に言いました。それ以降、科学者たちは私たちに最も近い哺乳類——チンパンジーやボノボ——だけでなく、他の種にも笑いの証拠を見つけました。笑いとうユーモアの進化論的な起源を探索する人々は、歴史が先史時代へとさかのぼっていくと推測するしかありません。先史時代とは、約 30 万年前に

独自の種として現れたホモ・サピエンスによって、どのように笑いが体験されたかについての話、直接の証拠、証言が無いということの意味するからです。

しかし、このような推測には豊かさがあります！ 笑いは、これまでに提言されてきましたが、コミュニケーションのほぼ普遍的な形式(チンパンジーや他の類人猿がする)であり、人間における言語習得前の本能(赤ちゃんがする)であり、緊張をはらんだ状態の対処方法(極限状態で起こる笑い)であり、社会的な絆を創造し、深める手段です。

私たちが一つ確実に言えることは、笑いは地球上の生命の天賦の才能の一部であり、そしてそれを 2018 年 6 月 24 日の「バースデー・ブリス (誕生日の至福)」の主題として選ぶことで、グルマーイは私たちを、この青い天体、地球上の生命の一体性という状況下に置き、さらにそれを超越するものの状況下に置いたのです。というのは、最初の引用文はさらに続くのです。「人間は笑い、そして泣く唯一の動物である。というのは、人間は、あるがままの事実と、あるべきはずの事実との相違に心打たれる唯一の動物であるからだ」。言い換えれば、笑いは状況を超えた内側の場所、「あるべきはず」という知識が染み込んだ場所から生まれるものであり、それを見ている大いなる自己自身の絶対的な指示から引き出された基準から起こるものなのです。お祝いの日—— 2018 年 6 月 24 日—— は、この気づきの中に私たちを導くよう計画されたように思えます。

距離を置いて、その日を全体として見てください。するとそれは極めて芸術作品のようであり、エネルギーが形を取り、正式な始まりと終わり、つまりバデ・バーバのテンプルでの朝と夕方のアーラティーの周りをぐるぐると回っています。この活動の渦巻きとイベントの連続の中心には、お祝いのまさにその核心から生じる深い静けさと平和が横たわります。

10 世紀のカシミールの、シャイヴァイトの賢人であり教師であるアビナヴァグプタは、九つのラサまたは味わいを芸術作品の特徴として識別しました。九つのうちの一つはハシャー・ラサ

—— 喜劇のラサ —— です。(他には、ヴィーラ・ラサ、英雄的なもの、そしてアドゥブタ・ラサ、素晴らしいもの、などがあります)。九つのそれぞれは、審美的体験と人生そのものの体験の両方にとって不可欠な要素です。それぞれのラサは、9番目のラサ —— シャーンタ・ラサ、平和と静けさのラサ、大いなる自己の味わい —— の体験から発生し、それが注ぎ込まれ、そこに戻ります。シャーンタ・ラサは、すべての他のラサが最大限の決意のために取り入れる強壯剤です。2018年のグルマーイのメッセージの講話からのシッダ・ヨーギに良く知られた類似語は、サッテャ・ラサ —— 大いなる真理の味または味わい —— です。大いなる自己の体験の真理 —— 日常の活動の渦巻きに生気を与え、目撃する不動の中心 —— は、シャーンタ・ラサとサッテャ・ラサの根底にあります。

距離を置いて、その日を理解する時、私たちは2018年の「誕生日の至福」のお祝いは、ハジャー・ラサ、喜劇のラサを最も有力な基調として割り当てられたとすることができます。その日の数々の教えをつなげた糸は、喜劇的感覚の最も直接の肉体的な現れである笑いでした。グルマーイは、「笑いを贈ること」は誕生日のお祝いの主題であると言いました。笑い —— それは私たちを種として、集団として、サンガムとして一体化させ、そして人生のあらゆる栄枯盛衰を超越的に見る機会を与えるものです。

笑いは求められ、刺激され、呼び起こされました。それは、その日全体、サツツァング全体を通して豊かで、ソナタの主題のように展開しました。最初の主題提示部に続いて、すべてのさまざまな音域の進化と再現がありました。笑いは明らかな、または繊細な形を取って、素晴らしい癒やしの泉のように、言葉のさまざまなレベルを通して動きました。「誕生日の至福」の「至福」が笑いにしっかり根差し、私たち皆にその日まさに祝っているもの —— 大いなる自己の固有の性質の知識であるアートマ・ニャーナ、そして自身の愛の深さを通じてその知識を授ける人、教師 —— の味わいを与えました。私たちはグルマーイの誕生日、「誕生日の至福」をお祝いしたのです。

そして、その日のリズムカルな鼓動である笑いの最高潮の中に聞こえた「誕生日の至福」の至福は、微細なサツテャ・ラサの味わいで満たされていました。サツテャ・ラサは、お祝いのあらゆる要素、そしてお祝いのあらゆる要素が溶解したものの中に、つまりサット・チット・アーナンダとして知られる存在の究極の本質、意識と至福の中に浸透していました。グルマーイに体现された、シッダ・グルの形を取っているサツテャ・ラサは、2018年6月24日の「誕生日の至福」を祝うための理由と手段の両方だったのです。

お誕生日おめでとうございます、グルマーイ！



© 2018 SYDA Foundation®. 著作権所有。

完